

日本語母語話者による英語・中国語における誤用： 東京外国語大学国際英語・中国語学習者コーパスに みられる英語前置詞及び中国語“一十類別詞”の誤用

望月 圭子

はじめに

1. 英語・日本語・中国語学習者コーパス構築とオンライン誤用辞典
 - 1.1. グローバル COE「日本語学習者コーパス」
 - 1.2. グローバル COE「日本語誤用オンライン辞典」
 - 1.3. 上級英語学習者コーパスに基づく「オンライン英作文学習者コーパス・誤用辞典」
 - 1.4. 英日中国語ウェブ誤用コーパス構築
 2. 英語学習者誤用コーパスにみられる英語の前置詞の誤用
 - 2.1. 英語・日本語・中国語の空間認知：IN と ON
 - 2.2. 概念化された場の「点」としての認知：AT と IN
 - 2.3. 連体修飾にみられる of の過剰使用：「NP₁ の NP₂」との関連
 3. 中国語学習者コーパスにみられる「数量詞の欠如」：日本語における個体化認知の欠如
- むすび

はじめに

本稿では、東京外国語大学を拠点として国際連携で製作している英語・日本語・中国語学習者作文コーパス・誤用検索システム構築について紹介し、誤用検索システムを用いてどのような誤用分析が可能なのかについて論じる。そのケーススタディーとして、日本語の「空間認知」と「個体化機能における無界性 (unboundedness)」が、英語の前置詞の習得及び中国語の数量詞“一十類別詞”の習得のいずれの習得においても、習得を困難にしている現象を論じる。

1. 英語・日本語・中国語学習者コーパス構築とオンライン誤用辞典

まず、東京外国語大学で構築した学習者コーパスを概観する。東京外国語大学では、以下三種類の日本語・英語・中国語学習者コーパス及び誤用コーパスの構築・誤用分析を行っている。

また、日本語誤用の検索例として、例えば、「文の接続」についての誤用を検索すると、検索結果のほかに、以下の図 2 に示されるように、誤用の詳細が示され、誤用の原因、訂正文も表示するように設計され、日本語学習辞典としても活用可能となっている。

誤用の詳細

誤用文 夢は何でしょうの問題に答えて、望みをかなえることだと思う。

訂正文 夢は何かという問いに答えるなら、(それは) 望みをかなえることだと思う。

学習者ID	Ld_019_2009
母語	English
課題	Free Topic
大分類	1 文法
中分類	1-142文の接続
小分類	1-14-1 列挙
KWかな	て
KW漢字	て
タイプ	誤選択
添削情報(訂正)	列挙→条件【V-て→Vなら】
添削情報(解説)	

図 2 日本語誤用検索結果の詳細ページ

図 2 は、リーズ大学 2009 年度 19 番の ID をもつ英語母語日本語学習者が、自由課題の日本語作文を執筆し、そのうち、文の接続についての誤用があったことを示している。

1. 3. 上級英語学習者コーパスに基づく「オンライン英作文学習者コーパス・誤用辞典」

英語学習者コーパスは、2011 年度より東京外国語大学国際日本研究センターの日英語対照プロジェクトとして支援を受け、上記の「日本語学習者コーパス・誤用オンライン辞典」と同様の手法で、収集・製作された。この英語上級学習者作文コーパス (TOEIC 平均 800 点程度) は、東京外国語大学英語専攻 1 年生必修授業 Academic Writing で、授業外で辞書使用の条件下で執筆された 600words 前後の英作文から構成され、2014 年 2 月時点で、120 名の学習者が執筆した 1,189 作文が収録されている。さらに、誤用辞典としては、英語母語話者教員の監修のもと、英語母語話者が添削し、冠詞及び前置詞の誤用項目についてのみ検索可能な「オンライン英作文学習者コーパス・誤用辞典 Online Dictionary of Misused English (以下、ODME)」を以下のサイトで公開している。

<http://sano.tufs.ac.jp/lcshare/htdocs/index.php>

1.4. 英日中国語ウェブ誤用コーパス構築

日本語・英語学習者コーパスは、2013年度から2015年度にかけて、東京外国語大学国際日本研究センター及び科研基盤(B)「英日中国語ウェブ誤用コーパス構築と母語をふまえた英語・日本語・中国語教授法開発」(研究課題番号2514101)の助成を受け、国際連携による学習者コーパス構築へと発展し、検索サイトの充実もはかられた¹⁾。

まず、英語学習者誤用コーパス構築については、東京外国語大学英語専攻1年生の授業での英作文以外に、協定大学である国立台湾師範大学・上海外国語大学と連携して、三大学の英語専攻の学生が同じ翻訳課題²⁾で執筆した英作文を収録し、添削・誤用タグ付与ソフトウェアの開発を経て、誤用タグ体系も整備し、語彙・文法項目誤用の検索が可能なウェブ誤用辞典として、日本語・中国語学習者誤用検索サイトとともに、多言語学習者誤用検索サイトとして公開している。

<http://ngc2068.tufs.ac.jp/corpus/>

東京外国語大学 国際日本研究センター 国際日本語教育部門 (2013~2015年度)
科学研究費助成事業 基盤研究(B)：英日中国語ウェブ誤用コーパス構築と母語をふまえた英語・日本語・中国語教授法開発

<p>英語学習者 誤用検索サイト</p> <p>on → in</p>	<p>日本語学習者 誤用検索サイト</p> <p>は → が</p>	<p>中国語学習者 誤用検索サイト</p> <p>上 → 里</p>
<p>Learners' Error Corpora of Chinese Searching Platform</p>	<p>Learners' Error Corpora of English Searching Platform</p>	<p>Learners' Error Corpora of Japanese Searching Platform</p>

図3 英語・日本語・中国語学習者誤用検索サイトトップページ

図3の英語・日本語・中国語学習者誤用検索システムでは、国際連携で、以下の学習者作文コーパスが収録されている。

英語作文は、284作文が誤用タグ付きで収録されている。作文執筆者は、主に東京外国語大学英語専攻・国立台湾師範大学英語専攻・上海外国語大学英語専攻の学生たちで、上級英語学習者コーパスと位置付けられ、誤用には、単純な誤りが少なく、学習者の母語の影響による誤用がより明確に観察される。

日本語作文は、129 作文が誤用タグ付きで収録されている。作文執筆者は、交流協定大学である英国リーズ大学日本語学科の学生、上海外国語大学日本語専攻の学生、北京大学の第二外国語として日本語を履修している学生、国際教養大学の英語を母語とする日本語学習者である。前出のオンライン日本語誤用辞典と同様、添削監修、誤用項目抽出は、小柳昇氏が担当している。

最後に、中国語作文は、369 作文が誤用タグ付きで収録されている。作文執筆者は、東京外国語大学中国語専攻の 2,3,4 年生で、2013 年から 2014 年の 2 年間に、授業の課題として、授業外に辞書使用で執筆された作文に、中国語母語話者が下添削し、さらに中国語を教える中国語母語話者教員が添削の二重チェックを行って、誤用タグを付け、語彙文法項目の誤用検索が可能となっている。例えば、本稿で論じる“一+類別詞”誤用は以下の図 4 のように検索される。

学習者ID	該当部分前方	該当部分	該当部分後方	誤用タイプ	誤用力テグ	プレビュー
Tu_Ch_086	迪拜建一棟公蜜楼。地方是	→一个	度假村,而且产很多的石油	add	短语 量词短语	
Tu_Ch_073	顺序,效率高多。英语只是	→一种	手段。没有说话的内容和说	add	短语 量词短语	
Tu_Ch_023	爱看足球了。去年,我去了	→一个	特别大的运动场看日本代表	add	短语 量词短语	
Tu_Ch_027	又能英语听力。我认为这是	→一种	有益的爱好。我还喜欢看申	add	短语 量词短语	
Tu_Ch_030	喜欢的作家是白石一文,是	→一位	日本作家。他的作品都会让	add	短语 量词短语	
Tu_Ch_056	?之前,我们首先要说明这	→栋	房子的对象。我们卖给六十	add	量词 量词短语	
Tu_Ch_056	要说明这房子的对象。我们	→把这栋瑞典的房子	卖给六十岁以上的人,因为	add	移动 句式 "把"字句 量词	
Tu_Ch_056	房子有三个特点。第一个是	→一个	开放厨房,家里人看奇的脸	add	短语 量词短语	
Tu_Ch_056	共汽车也很方便。第三个是	→一个	很大的院子,院子里可以种	add	短语 量词短语	
Tu_Ch_067	,要是他们只会说英语,有	→一些	学生不理解,需要翻译的人	add	量词	
Tu_Ch_001	我妹妹刚刚出生。家里还有	→一个	四岁的弟弟。记得那时,我	add	短语 量词短语	

Copyright ©
東京外国語大学 & 國立台灣師範大學
All Rights Reserved

図 4 中国語学習者誤用検索サイトにおける数量詞“一+類別詞”誤用検索結果

また、図 4 中で、右端のプレビューボタンを押すと、図 5 に示すように、誤用検索対象の“一+類別詞”がマークアップされ、それ以外の誤用箇所についての情報も表示される設計となっている。

TUFS/004_TUFS_CH_086.xml (Original)

TUFS/004_TUFS_CH_086.xml (Revised: With Tags)

我们房地产的公司 → 我们的房地产公司 (replace, 移动 短语 “的”字短语) → 想(add, 动词 状态动词) 在阿拉伯的迪拜建一棟百次建的高层 → 百层高的(replace, 表现) 公寓楼。这个 → 那个(replace, 代词 指示代词) 地方是 → 一个(add, 短语 量词短语) 度假村, 而且产很多的石油, 所以很多有钱人。除了国内的有钱人 → 以外(add, 方位词), 还有很多外国 → 的(add, 助词 结构助词) 有名人来这里过 → (delete, 动词) 度假。我们打算把公寓的房间卖给这样的人。我们的 → (delete, 短语 “的”字短语) 公寓楼的很大的 → (delete, 短语 “的”字短语) 特色是面向大海。每个房间里 → 都(add, 副词 范围副词) 有客厅, 厨房, 厕所, 浴室, → 和(replace, 连词) 卧室。里有五十平米的客厅。在 → (delete, 介词) 客厅 → 里(add, 方位词) 有很大的窗户, 从这个 → 些(replace, 量词) 窗户你们可以欣赏海景和夜景。房间里还有很大的按摩浴池。

図5 中国語学習者誤用検索サイト“一＋類別詞”誤用を含む作文全文表示

以上が、2016年5月の時点における、英語・日本語・中国語学習者作文コーパス及び誤用辞典構築の紹介である。今後も、学習者コーパスの収集・誤用辞典構築は継続するが、こうした誤用タグ付き英語・日本語・中国語学習者作文コーパスがどのように誤用研究や、学習者の母語に基づく効果的な教授法研究に貢献するのかについて、以下、英語の前置詞の誤用及び中国語の“一＋類別詞”の誤用を例にして論じる。

2. 英語学習者誤用コーパスにみられる英語の前置詞の誤用

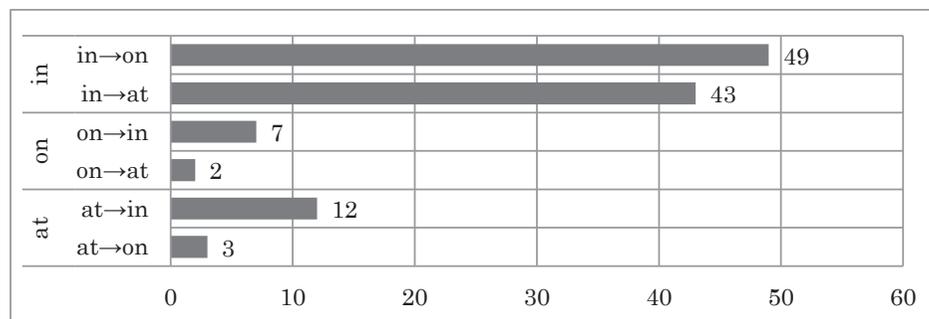
冠詞及び前置詞の誤用項目についてのみ検索可能な「オンライン英作文学習者コーパス・誤用辞典 Online Dictionary of Misused English (以下、ODME)」において、前置詞の誤用数とその割合は、以下のとおりである。本節では、上位5位の“in, of, on, at, for”の誤用例について考察する。

表 1 ODME における前置詞の誤用数

誤用全体	2738	
前置詞	誤用数	誤用率
in	418	15.3%
of	249	9.1%
on	231	8.4%
at	118	4.3%
for	118	4.3%
through	17	0.6%
around	8	0.3%
between	6	0.2%
off	2	0.1%
against	2	0.1%
inside	2	0.1%
outside	0	0.0%
near	0	0.0%
below	0	0.0%
under	0	0.0%
合計	753	27.5%

まず、「in」の誤用からみると、最も卓越した誤用類型の一つは、「前置詞「in」の過剰使用」である。望月・狩野 (2011) では、英語学習者コーパスにおいて抽出された空間・時間を表す前置詞 in/on/at 間の誤用は 116 例あり、その内訳は、(1) のように示されることを示した。

(1) 空間・時間を表す前置詞 in/on/at 間の誤用



(1) が示すように、in/on/at 間の誤用 116 例のうち、in の誤用が 79%(92 例) を占め、最も顕著である。なぜ「in」の過剰使用が日本語母語学習者に顕著なのだろうか。まず、英語の AT, ON, IN のイメージスキーマを (2) として図示しよう。

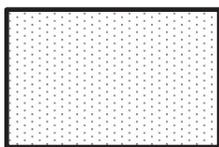
(2) AT / ON / IN のイメージスキーマ

a. AT



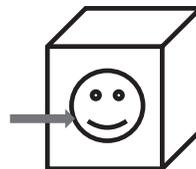
「点」→「ひとまとまり性」

b. ON



「平面」

c. IN



「立体」「内部構造」「内部移動」

以下、日本語母語話者による前置詞の誤用の要因が、日本語では、空間認知のイメージスキーマが顕著ではなく、日本語の「無界」(unbounded) 的特徴に起因することを論じる。

2. 1. 英語・日本語・中国語の空間認知：IN と ON

日本語母語話者による in の誤用では、「場所表現には in が用いられる」という「過度般化」が日本語母語英語学習者には存在することが推測される。以下誤用例を挙げよう。各誤用文の後に付された () 内の番号は、執筆年度、学習者 ID を示している。下線は筆者によるもので、(→ X) は、X が正しい表現であることを示している。また、以下に挙げる誤用例は、前置詞の誤用にだけ焦点をあてたデータであり、前置詞以外の誤りも含まれている場合があるが、全文の添削前及び添削後のデータは、「オンライン英作文学習者コーパス・誤用辞典」で公開しているので、全文の添削については公開データを参照されたい。

(3) The safety in (→ on) Japanese trains is also one of the reasons why people feel relaxed enough to sleep. (TUFS_2012_2)

日本の電車の中の治安のよさも、安心した眠りができる理由でもあります。

公共交通機関であるバス、電車、船、飛行機等の空間は、英語では ON と認知され、on が用いられる。それは、共通理解として「決められた路線図上を移動する」という認知とも相関している。その証拠に、お客の指示に従って移動するタクシーは、on ではなく in a taxi と表現する。一方、日本語では、こうした「公共交通手段⇒路線図⇒ ON」という認知は存在せず、「～^{ナイ}内」(車内、機内、学内)、「～^{なか}の中」(電車の中、飛行機の中、学校の中)といった表現が用いられ、平面的認知の表現は用いられない。こうした日本語の特性が、「in の過剰使用」を引き起こしていると予測される。中国語においても、場所詞の後につく <上 -shang> が、ON の概念とみなされる。中国語においても、英語と同様、空間認知における ON 概念化が存在している。

- (4) a. 车上睡觉 電車の中で眠る。
 b. 飞机上看电影 飛行機の中で映画を観る。

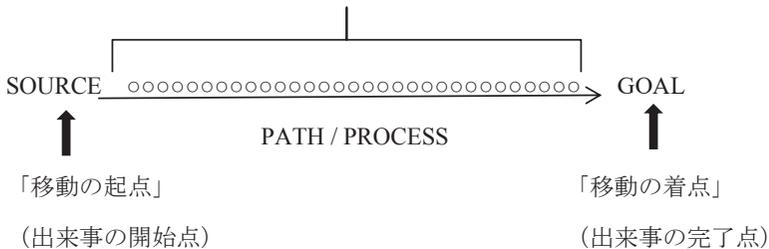
日本語母語話者が、中国語を学習する際にも、(4) のような「名詞を場所化する <上>」の習得がむずかしく、「中国語学習者コーパス」においても、脱落している誤用が多いが、この現象は、日本語母語話者にとって、英語の ON 概念の習得がむずかしいと同様である。

また、中国語では、<上>は「事象名詞」の後につくこともある。例えば、<课堂上 (授業で)、宴会上 (宴会で)、学会上 (学会で)> のような例があるが、日本語では、格助詞の「で」としか訳せず、空間表現はつかない。望月・狩野 (2012) は、英語の on が、「移動に関わる名詞」(e.g. route/course/train/airplane/trip) や「通信伝達に関わる名詞」(e.g. phone/radio/TV/internet) と共起するのは、「経路」(PATH) というイメージスキーマと関連している可能性を示唆し、以下のようなイメージスキーマと ON の概念を提示した。

(5) 「経路」(PATH) のイメージスキーマと ON

「移動の経路」 ON route/course/train/airplane/trip

「事象の過程」 课堂上 / 宴会上 / 学会上



中国語において、事象名詞に <上> がつく場合は、(5) の PROCESS 「出来事の過程」が想定され、過程の上を、○ が漸増的に GOAL に移動する移動現象が、「時間の推移」というアスペクトのイメージと関連しているともいえる。日本語では、「授業中^{チュウ}」という表現にあたる。

このように、英語・中国語は、ON 概念の空間表現が卓越しているのに対し、日本語では、(2) で示したような「点」「平面」「立体」という区別が明確な空間認識が存在せず、以下の (6) に示すような、空間や実体の境界が曖昧な無界的な「ウチ」という認識しかないように思われる。

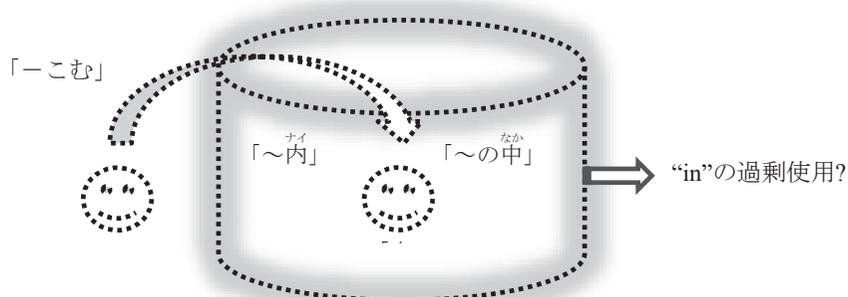
例えば、日本語の「～こむ」は、生産性が高い複合動詞であるが、「床を磨きこむ」「身体と精神を鍛えこむ」等の用法は、抽象的な「精神性」がある空間の内部へ移動するという「抽象的内部移動」を示している。こうした抽象的内部移動の「～こむ」は、複合動詞が存在する中国語や韓国語でも、複合動詞にすることができず、「一生懸命 { 磨く / 鍛える }」と「副詞+動詞」

という形式に翻訳されるという。

また、日本語の「奥」という空間概念も、抽象的な空間概念である。「奥」は心理的に最も遠い場を指し、英語では、interior (内部), back (後部), bottom (底), depth (深い部分), secret (秘密の / 神秘的な) 等に対応し、英語からみれば多義性をもつが、日本語の語彙としては、「奥」が表す空間は、「遠く深いところに存在する神秘的な、無限の広がりをもつ場」で、その無界性が、ON や AT ではなく、IN というイメージスキーマと結びつくのではないだろうか。

日本語における「^{ナイ}～内」、「^{なか}～の中」「～こむ」「奥」等、「境界が曖昧な内部空間」と「内部空間に融合しているモノ」というイメージスキーマは、(6) のように表される。

(6) 日本語における「^{ナイ}～内」、「^{なか}～の中」「奥」「～こむ」の「無界的」イメージスキーマ



2.2. 概念化された場の「点」としての認知：AT と IN

英語では、「概念化された場」(e.g. school, shop, station, hotel, post office) は、ある「一定の機能をもつ場」として「ひとまとまり性」をもち、個体化された点としての AT の概念と結びつく。しかし、日本語にはこのような認知手段はなく、(6) で示したような曖昧な空間として認知されるため、やはり「in の過剰使用」がみられる。以下の誤用例は、「学校」「大学」という概念化され、個体化された場に in を用いた誤用例である。

(7) a. There are a lot of food and drinks stalls in (→ at) the university run by students.

(TUFS_2011_63)

大学には、学生たちによって運営される飲食の屋台がたくさんある。

b. In (→ at) the school, I studied English diligently in order to enter TUFS, Tokyo University of Foreign Studies. (TUFS_2012_15)

学校では、東京外国語大学に合格するために、英語をがんばって勉強した。

(7a,b) の university/school は、「具体的な場」としてではなく、「大学」「学校」という機能面に視点を置いた「概念化され個体化された場」として、AT と認識され、内部構造認知の IN とは共起しない。しかし、日本語母語英語学習者は、「概念化された場」を「ひとまとまり」として認知する AT の概念でとらえることがむずかしい。その一つの要因に、日本語の場所表現には、「場」の空間認知の相違によって異なる格助詞を用いることがないことが挙げられる。「に」「で」の使い分けは、空間認知ではなく、述語が存在の意味を内包するか否かという、統語的な要因に基づいている。

(8) a. 「場所+に」:

語彙的に「存在」の意味を内包する述語「ある、いる、住む、置く、留まる、泊まる」等と共起し、述語の「必須項」(obligatory argument) となる。中国語では、「動詞+<在 zai> 存在場所」構文に相当し、存在場所は動詞の後置成分で補語。

b. 「場所+で」:

命題の「場面設定」(scene-setting) として、文全体の修飾機能をもつ場合に用いられ、述語にとっては「随意項」(optional argument) であり、基本的にとどのような文にもつくことができる。中国語では、「<在 zai> 場所+述語」に相当し、副詞句。

つまり、空間を表す「に」と「で」の使い分けは、述語の語彙的特性によって決められているため、日本語母語話者は、英語・中国語にみられる空間認知、即ち英語における IN/ON/AT の使い分け、中国語の名詞を場所化する<上>の習得が困難となる。一方で、英語・中国語を母語とする日本語学習者にとっては、「に」と「で」の使い分けが学習困難点となる。一般的には、初級ほど、また中国語母語話者ほど、「に」の過剰使用が観察される。「中国語の介詞<在 zai> = 日本語の“に”という過度般化によるものではないかと推測される。以下、「日本語誤用オンライン辞典」から誤用例を挙げよう。

(9) a. ドーピングの問題はどれも複雑なので具体的に答えられないだろう。上に(→で)論じられたことからもっと議論することはあると思われる。(英語母語, Ld_044_2009)

b. 大学院で私の人生の中に (→で) 初めての「零」をもらいました。(中国語母語, Mc_005_2010)

2. 3. 連体修飾にみられる“of”の過剰使用: 「NP₁のNP₂」との関連

日本語における空間認知の無界性は、日本語母語話者による“of”の過剰使用にも反映さ

れる。表1で先にみたように、「オンライン英作文学習者コーパス・誤用辞典」における前置詞の誤用数で、“in”の誤用の次に多いのは、“of”の誤用である。最も誤用の生起数が高いのは、“of → in”タイプの誤用である。

(10) of → in

- a. The insides of trains of (→ in) Japan are ideal, because they are air-conditioned in the summer and heated in the winter. (TUFS_32_2012)
- b. A Turning Point of (→ in) My Life (TUFS_40_2012)

(10a)の「日本の電車」という表現は、英語では、「日本という空間内に存在する電車」という空間認知に基づき、“trains of Japan”ではなく、“trains in Japan”となる。また、(10b)の「人生の転換期」も、「人生という時間の内部構造における一つの転換期」という認知に基づき、“a turning point of my life”ではなく、“a turning point in my life”である。日本語の「NP₁のNP₂」には、こうした空間及び時間の内部構造という認知は存在しない。

次に生起数が高い“of”の誤用は、“of → for”タイプの誤用である。

(11) “of → for”

- a. The train is a perfect place of (→ for) recreation and relaxation. (TUFS_03_2012)
(気分転換とくつろぎ(のため)の絶好の場所)
- b. After that, she has been acting as an interpreter of (→ for) a lot of movie film stars and producers. (TUFS_33_2012) (映画スターや監督の通訳者)
- c. It may be club activities, part-time jobs, or studying a lot, but there is another aspect of life to learn as a foundation of (→ for) your future. (TUFS_52_2012) (将来(へ)の基盤)
- d. Third, school uniform provides a certain sense of identity of (→ for) students and can become a memory in itself. (TUFS_60_2012) (生徒のアイデンティティ)
- e. The average number of hours of sleep of (→ for) salaried workers is approximately seven, and overworked workers and students who are pushed to study for their exams are always in a chronic state of lack of sleep, and so, trains are suitable places for relaxation. (TUFS_68_2012) (サラリーマン(にとって)の平均睡眠時間)
- f. In most of the examinations of (→ for) a private university, the examinee is required to take three subjects. (TUFS_79_2012) (私立大学(に入るための)の入学試験)

(11) に挙げた例は、いずれも、日本語では「NP₁のNP₂」という表現に対応する。“NP₁ for NP₂”は、「利益」「授与」「用途」「目的」「原因」「基準」「代表」「時間表現」等多様な意味機能をもつが、日本語母語話者には、習得がむずかしい。日本語では、「～のための」「～への」「～にとっての」という形式もあるが、「NP₁のNP₂」という連体修飾表現が、日本語母語話者の“of”の過剰使用の原因になっていると推測される。

Mochizuki and Newbery-Payton (2016:29) では、日本語母語話者は、中国語母語話者に比較して、“of”の過剰使用が卓越していることをデータで示している。このデータは、東京外国語大学及び上海外国語大学の英語専攻の学生に同じ翻訳タスク（本稿の付録を参照されたい）として課した英語学習者コーパスにおける誤用の比較分析に基づくものである。

日本語母語話者は、“NP₁ for NP₂”という英語表現を誤って使いやすい。筆者は、成田空港で、日本の航空会社の機体に、“Inspiration of JAPAN”という英語が塗装されているのを見て、違和感を感じたことがある。「日本のインスピレーション」という日本語表現になおすと、なんとなく理解できるような感じもするが、複数の英語母語話者に聞くと、「非文法的」「意味不明」ということである。名詞“inspiration”は、事象構造として、「ある人が、何かから (from)、何かに対して (for) インスピレーションを受ける」という移動事象として捉えられる。とすると、“Inspiration from JAPAN”（日本から、「安全性」「先進性」「技術力」「礼儀正しさ」「正確性」「きめこまやかなおもてなし」といったインスピレーションを世界に向けて発信する）というほうが正確であろう。

いずれにしても、日本語の連体修飾「NP₁のNP₂」形式が多様な修飾関係を表すことが、“of”の過剰使用の原因と推測される。

3. 中国語誤用における「数量詞の欠如」：日本語における個体化認知の欠如

池上 (1981), 池上 (2007) では、英語が「個体化指向」「有界的」(bounded) な事態把握であるのに対して、日本語は、個体を全体に融合させ、明確な輪郭をもたない「連続体指向」「無界」(unbounded) 的事態把握であることが述べられている。この主張を支持する現象として、

「中国語学習者コーパス」にみられる「“一个 yige”の欠如」による誤用が挙げられる。“一个 yige”とは、“一+類別詞”構造で、「一個」「ひとつの」の意味をもち、英語の不定冠詞“a”に類似する数量詞であるが、“a”とは異なり、常に義務的に名詞につくわけではなく、沈家煊 (1995) によれば、「有界的」(bounded) な事態把握の場合にのみにつく。以下、“一+類別詞”の代表として、“一个”³⁾がつく例文を挙げる。

(12) a. 虽然是一个物资不是很丰裕的时代，但是胡老师以及他家人对我的热情款待的回忆，

始终就像一个宝藏一样。

物質的に豊かとはいえない時代でしたが、胡先生と先生のご家族が私をご親切にもてなしてくださった思い出は、宝物のように今も胸に刻まれています。

- b. 日本是一个高度管理的社会, 有人说整个日本如同一个大公司。(人民日报 1995年6月份, 北京大学 CCL コーパスによる)

日本は高度な管理社会で、日本全体が大企業のようであるともいわれる。

下線部の「時代」「宝物」「社会」「大企業」に相当する中国語には、いずれも“一个”という数量詞がつくのに対し、日本語ではこうした数量詞がつかない。「中国語学習者コーパス」においても、(13)の誤用例が示すように数量詞の脱落が顕著である。

- (13) a. 那时发生了*(一件)不幸的事。

その時、不幸な出来事がおこった。

- b. 东大和有*(一个)很大的公园, 东大和南公园, 附近也有*(一条)小河。

東大和にはとても大きな公園がある、即ち東大和南公園である。そして、その付近には小川もある。

一方、英語母語話者による中国語学習者コーパスでは、「一个」=英語の不定冠詞“a」という過度般化により、「無界」(unbounded)的な未完了の事態においても“一个”をつけるという過剰使用がみられる。以下は、國立台灣師範大學より提供された英語母語話者コーパス⁴⁾中にみられた“一个”の過剰使用例であるが、いずれも、予定・可能・蓋然性・否定等の「無界」(unbounded)的な未完了の事態に“一个”をつけた誤用例である。

- (14) a. 我計畫我們去電影院看(*一部)電影。

私は、私たちが映画館に行って、一作の映画を見る計画をしている。

- b. 我記得你說過你喜歡丟飛盤, 所以我會把(*一張)飛盤帶來。

君はフリスビーが好きだときいたから、私はフリスビーを一つ持ってくるよ。

- c. 我在台北沒有發生(*一個)大問題, ……

私は台北では、まだ大きな一つの問題にあったことがない。

- d. 今天他不但忘了帶手機, 也忘了帶(*一瓶)水。

今日彼は携帯電話を忘れたばかりではなく、水一本持ってくるのも忘れた。

中国語には、文法範疇としての「数」はないが、類別詞が非常に発達し、数量詞が「有界的」(bounded) な事態把握の場合につく。この点で、中国語は、(13) のように、英語ほど「個体化指向」ではないにしても、日本語よりは、「個体化指向」が強いといえる。

(15)

	① 文法範疇「数」	② 類別詞	③ 個体化
英語	+	-	+++
中国語	-	+++	++
日本語	-	+	-

結び

本論では、日本語の特質を、空間表現、数量詞について、中国語・英語との比較から論じた。論考を通して浮き彫りになるのは、日本語が、英語についてはいうまでもなく、中国語よりも「連続体指向」「無界」的事態把握の特質をもつという事実である。

第一に、英語の空間を表す前置詞“in”“on”“at”のうち、日本語母語英語学習者コーパスにおいて、“in”の過剰使用が顕著であるという事実をみた。その誤用原因として、日本語における「～内^{ナイ}」、「～の中^{なか}」「～こむ」「奥」等、「内部空間に融合しているモノ」「境界が曖昧な内部空間」といった空間認知が関与している可能性を論じた。ここにも、日本語母語者において、「無界的」空間認知が卓越し、「無界的」空間に“in”を用いる可能性がみえる。

第二に、英語学習者コーパスにおいて、日本語母語話者は、連体修飾にみられる“of”の過剰使用が、中国語母語話者よりも卓越していることが、日本語の連体修飾表現「NP₁のNP₂」に起因する可能性について論じた。日本語の連体修飾表現「NP₁のNP₂」は、英語では、空間・時間の内部構造を表す“in”や、「利益」「授与」「用途」「目的」「原因」「基準」「代表」「時間表現」等、多様な意味機能を表す“for”に対応する場合の誤用につながると推測される。こうした誤用にも、日本語では「NP₁のNP₂」という一つの連体修飾表現のみで、多様な修飾関係が表されるという「無界性」が原因となっている。

第三に、日本語母語話者学習者コーパスにおける「中国語の数量詞“一个”の欠如」、英語母語話者学習者コーパスにおける「中国語の数量詞“一个”の過剰使用」が卓越しているという対比は、日本語が「無界」的事態把握の特質をもつため、日本語母語話者にとって、「有界的」事象把握の“一个”の習得が困難であることが示唆される。

日英語の表現類型の相違については、多くの論考があるが、中国語も加えた比較をしてみると、中国語は、さまざまな点で、日本語対英語の両極の中間に位置する言語のように思われる。中国語は、自他対応の語形成において自動詞が基本、脱使役化、複合動詞という点で、日本語と類似するのに対し、VO語順、使役構文の卓越性、数量詞による名詞の個体化という点で、

英語と類似する。日本語を英語のみならず、中国語を加えた比較を通して分析することは、こうした意味で非常に興味深い。

最後に、本稿では、母語が異なる英語・中国語・日本語学習者コーパスを比較し、学習者の母語によって、異なる誤用類型が観察される現象とその要因についても論じた。学習者コーパスの研究は、学習者の母語の特質を検証可能な貴重なデータであり、学習者の母語にねざした効率的な言語教育研究にも大きく貢献する。学習者コーパス研究が、新しい学問領域として大きく研究が進むことを期待して筆をおきたい。

注

- 1) 学習者誤用コーパス用ウェブ検索システムの詳細については、呉・李・井上・佐野 (2016) を参照。
- 2) 学習者コーパスを一般公開するにあたり、著作権の関係から、筆者自身が書いた日本語エッセイに、研究チームのキャロライン狩野が英語への翻訳、申垂敏が中国語への翻訳を担当した。東京外国語大学の学生は、日本語エッセイから英語へ、国立台湾師範大学及び上海外国語大学の学生は、翻訳された中国語から英語及び日本語へと、同一翻訳課題で、相互参照型の英語・日本語学習者作文コーパスを収集した。日本語エッセイ及び英語・中国語訳を付録に掲載する。
- 3) 中国語の類別詞は非常に豊富な体系をもつが、ここでは、“一个 yige” を数量詞の代表として記載する。
- 4) 国立臺灣師範大學國語教學中心で中国語を学ぶ英語母語話者が執筆した中国語作文 600 作文で、CEFR で A2,B1,B2 レベルの台湾教育部中国語検定試験 TOCFL の試行版による。研究目的にのみ使用が可能のため、筆者のチームが製作した中国語学習者コーパスには収録していないが、協働研究目的にのみ、使用を許可してくださった国立臺灣師範大學の宋曜廷教授、陳柏熹教授、陳浩然教授、張莉萍教授に感謝申し上げる。

使用コーパス

1. 《汉语动词-结果补语搭配词典》1987. 王砚农・焦群・庞颀编. 北京语言学院出版社.
2. 北京大学中国語言学研究中心 CCL コーパス.
3. 《现代汉语述补结构用法数据库》2009. 早稲田大学砂岡和子研究室・北京大学中文系詹卫东研究室・東京外国語大学望月圭子研究室共同制作。中国語の複合動詞オンライン辞典。
<http://ccl.pku.edu.cn/vc/>
4. 東京外国語大学 GCOE 「日本語学習者言語コーパス」
<http://cbll.tufs.ac.jp/llc/ja/index.php?menulang=ja>
5. 東京外国語大学 GCOE 「日本語誤用オンライン辞書」
http://cbll.tufs.ac.jp/llc/ja_wrong/
6. 東京外国語大学国際日本研究センター「オンライン英作文学習者コーパス・誤用辞典」
<http://sano.tufs.ac.jp/lcshare/htdocs/?lang=japanese>
7. 東京外国語大学・国立台湾師範大学・上海外国語大学共同制作
‘Learners' Error Corpora of English Searching Platform’
http://ngc2068.tufs.ac.jp/corpus_eng/
8. 東京外国語大学・国立台湾師範大学共同制作
‘Learners' Error Corpora of Chinese Searching Platform’
http://ngc2068.tufs.ac.jp/corpus_ch/

9. 東京外国語大学国際日本研究センター・リーズ大学・北京大学・上海外国語大学共同制作「国際日本語学習者作文コーパス及び誤用辞典」
http://ngc2068.tufs.ac.jp/corpus_ja/

参考文献

- アンドレア・タイラー, ビビアン・エバンズ著、国広哲弥監訳、木村哲也翻訳 2005『英語前置詞の意味論』研究社.
- 池上嘉彦 1981『「する」と「なる」の言語学—言語と文化のタイポロジーへの試論』大修館書店.
- 池上嘉彦 2006『英語の感覚・日本語の感覚』NHK ブックス, NHK 出版.
- 池上嘉彦 2007『日本語と日本語論』筑摩書房.
- 影山太郎 1993『文法と語形成』ひつじ書房.
- 影山太郎 1996『動詞意味論—言語と認知の接点』くろしお出版.
- 影山太郎 2004『ケジメのない日本語』岩波書店.
- 影山太郎 2005「辞書の知識と語用論的知識—語彙概念構造とクオリア構造の融合にむけて」影山太郎編『レキシコンフォーラム』No.1. pp: 65-101. ひつじ書房.
- 影山太郎編 2013『複合動詞研究の最先端—謎の解明にむけて』ひつじ書房.
- Levin, Beth 1993 *English Verb Classes and Alternations*. University of Chicago Press.
- Levin, Beth, and Malka Rapaport Hovav 1995 *Unaccusativity: At the Syntax-Lexical Semantics Interface*. Cambridge: MIT Press.
- Lindstromberg, Seth. 1998. *English Prepositions Explained*. Amsterdam: John Benjamins Publishing Company.
- 望月圭子 1990a「日・中両語の結果を表す複合動詞」『東京外国語大学論集』第 13 号、pp:13-27.
- 望月圭子 1990b「動補動詞の形成」『中国語学』210. pp:11-110. 日本中国語学会.
- 望月圭子 1993「場所に関わる『に』と『で』—中国語との対照から—」『松田徳一郎教授還暦記念論文集』pp:100-111. 研究社.
- Mochizuki, Keiko 2004 *Causative and Inchoative Alternation: Comparative Studies on Verbs in Chinese and Japanese*, 台湾國立清華大學語言學研究所博士論文.
- Mochizuki, Keiko 2007 "Patient-Orientedness in Resultative Compound Verbs in Chinese" Yuji KAWAGUCHI (et al.), *Corpus-Based Perspectives in Linguistics*. 267-280. Amsterdam/Philadelphia: John Benjamins Publishing Company.
- 望月圭子・キャロライン狩野 2012「英語・日本語における空間・時間に関わる格標識：日本語母語話者による英作文学習者コーパスにみられる誤用類型」『東京外国語大学論集』第 85 号、pp:219-236.
- Mochizuki, Keiko, Hiroshi SANO, Ya-Ming SHEN and Chia-Hou WU 2015 "Cross-Linguistic Error Types of Misused Chinese Based on Learners' Corpora" *Computational Linguistics and Chinese Language Processing* Vol. 20, No. 1. 97-114. The Association for Computational Linguistics and Chinese Language Processing. <http://www.aclclp.org.tw/clclp/v20n1/v20n1a6.pdf>
- Mochizuki, Keiko and Laurence Newbery-Payton 2016. "A Contrastive Study of Prepositional Errors in TUFSS Sunrise Advanced Learners' Corpora of English by Native Speakers of Japanese and Chinese"『日本語学習者の母語・地域性をふまえた日本語教育研究とウェブ辞典構築—国内外の日本語教育研究機関との協働的研究 (2013-2015)』pp:25-41. 東京外国語大学国際日本研究センター. <http://www.tufs.ac.jp/common/icjs/nl/rep0002.pdf>
- 望月八十吉 1982「日本語から中国語を眺める—その 2—」『日本語と中国語の対照研究』第 8 号、pp:1-18. 日本語と中国語対照研究会編.
- 望月八十吉 1994『現代中国語の諸問題』好文出版.
- 西山佑司 2003『日本語名詞句の意味論と語用論—指示的名詞句と非指示的名詞句—』ひつじ書房.

- 太田辰夫 1958『中国語歴史文法』江南書院。
沈家煊 1995 <“有界”与“无界”>《中国语文》第5期、pp:97-110。
申亜敏 2005「中国語の自他と結果表現類型」影山太郎編『レキシコンフォーラム』No.1、pp: 231-266。ひつじ書房。
申亜敏 2007「中国語の結果複合動詞の項構造と語彙概念構造」影山太郎編『レキシコンフォーラム』No.3、pp:195-229。ひつじ書房。
宗宮喜代子 2006「英語前置詞 of の意味」『言語情報学研究報告 11』東京外国語大学大学院 21 世紀 COE プログラム。「英語運用を基盤とする言語情報学拠点」 pp:227-245。
宗宮喜代子 2012『文化の観点から見た文法の日英対照』ひつじ書房。
Tai, James H-Y.1985 “Temporal sequence and Chinese word order” In John Haiman (ed.), *Iconicity in Syntax*:49-72, Amsterdam and Philadelphia : John Benjamins.
Tai, James H-Y. 2003「認知相対論：漢語結果複合動詞的の啓示」『語言暨語言學』第四卷，第二期。pp:281-295。中央研究院。
田中茂範・松本曜 1997『空間と移動の表現』研究社。
王軼群 2009『空間表現の日中対照研究』くろしお出版。
呉佳厚・李迎日・井上剛・佐野洋 2016「学習者誤用コーパス用ウェブ検索システム」『日本語学習者の母語・地域性をふまえた日本語教育研究とウェブ辞典構築—国内外の日本語教育研究機関との協働的研究 (2013-2015)』 pp:118-126。東京外国語大学国際日本研究センター。 <http://www.tufs.ac.jp/common/icjs/nl/rep0002.pdf>

付録

[A] Original Japanese Text (Keiko MOCHIZUKI)

私は、20代から30代にかけて、北京、上海、ロンドン、台湾に留学したことがあります。留学時代の思い出として、今、懐かしく思い出すのは、先生方のお宅に招かれ、おもてなしを受けた思い出です。

まず、最初に、上海留学中の思い出についてお話しします。

東京外国語大学で中国語学の修士号を得た私は、中国政府公費留学生として、1986年から1988年にかけて、復旦大学 (Fudan University) に留学しました。指導教授は、著名な中国語学者であった胡裕樹教授 (Prof. HuYushu) でした。その頃は、復旦大学の先生方には、研究室がなく、論文指導は、大学に隣接する宿舎に住んでいらっしゃるご自宅の書斎兼寝室で行われました。先生方のご自宅には電話もなく、突然訪ねていくことが多かったのですが、突然お伺いしても、必ずドアを開けてくださった、そんな牧歌的時代でした。

ある日、予約なしに胡先生のおうちを訪ねた私に、ご一家は、「ちょうど八宝飯 (Babaofan; もち米で作った8つのドライフルーツが飾られたデコレーションケーキ) が蒸しあがったから、食べなさい」と、ふるまってくれたのです。蒸したての八宝飯の「やさしく、柔らかく、幸福な甘さ」は、忘れることができません。その後、中国料理店で、八宝飯をみつけると、必ず注文し、胡先生のおもてなしを思い出すのです。

論文の個人指導は、蒲団がロールケーキのように巻かれ、整えられて長椅子と化した胡先生のベッドに座って行われました。私がベッドに座ると、胡先生はまず、龍井茶 (LongJing Green Tea) を蓋付きの中国式マグカップにひとつまみ入れて、魔法瓶からお湯をいれ、お茶を淹れてくださいました。そして、結婚式の引き出物のような、赤いキャンディーボックスの蓋をとって、「キャンディーをどうぞ」と優しく微笑みながらすすめてくださったのでした。とても質素な時代でしたが、胡先生ご一家のおもてなしは、いまでも宝物のような思い出として、胸に刻まれています。

[B] Original Chinese Text (Keiko Mochizuki, translated by Shen YaMing, 下線部は、本稿で扱う、日本語母語話者にとって習得困難な “一十類別詞”)

在我二三十岁的时候也曾经到北京、上海、伦敦以及台湾留学过。如今每当我回想起当时的留学生活时，总是会想起每回到老师家里做客时的情景。首先，就让我谈谈在上海留学时的一段回忆。

从 1986 年到 1988 年，在修完东京外国语大学的硕士课程之后，我以中国政府公费留学生的身份到上海复旦大学留学了两年，我的指导教师是著名的汉语语言学家胡裕树教授。当时复旦大学的老师们并没有个人的研究室，每次的论文指导课都是在紧邻大学的老师宿舍里的书房兼寝室里进行的。也由于当时老师宿舍里还没有安装电话，所以常常都是无事先告知的突然造访，但是尽管如此，老师及其家人每次也都一定欣然开门迎客，我也从未尝过闭门之羹。那是一个如此纯朴的时代！

有一天，又是一个突然的造访。胡老师一家人对突然出现的我说道：“正好有蒸好的八宝饭，吃了再走吧！”，一边拿出八宝饭招待我这个不速之客。刚蒸好的八宝饭所带有的那种“软软、热热、甜甜”的幸福滋味，到现在仍然记忆犹新。从那以后，每当在中国餐馆里看到八宝饭，我一定会点来品尝，不为别的，就只为想再回味一次胡老师和他家人的待客之道。

每次上课时，老师都会将棉被卷成像西式卷心蛋糕似的长条状，然后将床铺整理得如同一条长凳子，要我坐在上面上课。我一坐定后，老师会先在一个传统中国式的、带盖子的茶杯里放入一小撮的龙井茶叶，然后从热水瓶里倒出热开水，为我沏上一杯热茶。之后，再拿出一个好象装喜糖用的大红色的糖果盒，打开盒子，亲切地微笑着要我吃糖。虽然是一个物资不是很富裕的时代，但是胡老师以及他家人对我的热情款待的回忆，始终就像一个宝藏一样，永远地深深地埋藏在我的心中。

[C] Original English Text (Keiko Mochizuki, translated by Caroline Kano)

① When I was in my twenties and early thirties, I myself had the opportunity of studying in Beijing, Shanghai, London and Taiwan. ② Of all my memories of studying abroad, what I still now remember most fondly, are the occasions when I was invited to the homes of my professors, and the warm hospitality I received. ③ In this connection, I would first like to talk about my memories of studying in Shanghai.

④ After receiving my M.A. in Chinese from Tokyo University of Foreign Studies, I went as a Chinese government-sponsored exchange student to Fudan University, where I studied from 1986 to 1988. ⑤ My academic supervisor was the eminent Sinologist, Professor Hu Yushu. ⑥ In those days, professors at Fudan University did not have their own room, and supervision of students' theses would be conducted in their private bedroom-cum-study in the university lodgings adjoining the university building, where they lived. ⑦ As the professors' lodgings were not equipped with a telephone, students would often call on them unexpectedly. ⑧ But however sudden a student's visit might be, in those idyllic times, their professor would always invite them in.

⑨ One day, when I arrived at Professor Hu's home without an appointment, he and his family welcomed me with a "We've just steamed a *babaofan* (a cake made with glutinous rice, decorated with eight kinds of dried fruit), so do have some!" ⑩ I will never forget the 'gentle, delicate, blissful sweetness' of that freshly steamed *babaofan*. ⑪ Thereafter, whenever I go to a Chinese restaurant and find *babaofan* on the menu, I always make a point of ordering it, and recall the kind hospitality which Professor Hu extended to me.

⑫ An individual guidance session on a student's thesis would be conducted seated on Professor Hu's bed, which, with the bed cover rolled up like a Swiss roll, was turned into a sofa. ⑬ As soon as I had sat down on Professor Hu's bed, Professor Hu would place a few leaves of Longjing green tea in a Chinese-style mug with a lid, add some hot water from a thermos, and serve it to me. ⑭ He would then take the lid off a red sweet box which looked as though it might have been a gift he had received as a guest at a wedding, and, smiling kindly, and with a "Do have a sweet!", offer me one. ⑮ They were very modest times, but the warm hospitality which I received from Professor Hu and his family still remains like a treasure engraved in my memory.

Error Types in TUFUS International Learners' Corpora of English and Chinese : Acquisition of Prepositions in English and “One+Classifier” in Chinese

MOCHIZUKI Keiko

Keywords:

Learners' Corpora of English and Chinese, Comparative Analysis of English and Chinese, Interlanguage, “Unboundedness” in Japanese, Spatial Lexicon, Individuality

This paper focuses on “Unboundedness” in the Japanese lexicon by analyzing error types in TUFUS International Learners' Corpora of English and Chinese.

First, we will examine error types in the prepositions “in/on/at/of” in TUFUS International Learners' Corpus of English. As Mochizuki and Newbery-Payton (2016) showed, the overuse of “of” is more frequently observed among Japanese learners of English, as compared with Chinese learners of English at Shanghai International Studies University. This is due to the flexible function of the Japanese genitive marker “-no” which can form the construction [Modifier Noun Phrase + “-no” + Head Noun] with various semantic relations. In contrast, the English prepositions “in/on/at/for/from” are classified according to spatial images.

Second, “Unboundedness” in the Japanese lexicon is also suggested through an underuse of “One + Classifier” in the Japanese learners' corpus while there is a significant overuse of “One + Classifier” in the English-native-speakers' corpus.